

歯科業界のコミュニケーションマガジン

# Dentalism®

[デンタリズム]

MARCH 2024  
No.62

注目の歯科医師インタビュー

わく歯科医院 院長

## 和久雅彦

スペシャルインタビュー

ありす歯科医院

## 大河原純也

輝く女性に逢いに行く

yuki DENTAL care 院長

## 田内友貴

### Dentalism News & Topics

マクロライド系抗菌薬が骨の再生・回復に寄与  
サリバチェッカーがJNP特別賞を受賞  
歯科衛生士は増加、歯科技工士は減少  
ミュータンス菌の刺激でがんの転移が促進



## 歯科衛生士は14万5,183人で2,423人増加。 歯科技工士は3万2,942人で1,884人減少。

厚生労働省が公表した「衛生行政報告例の概況」によると、2022年末時点の就業歯科衛生士数は14万5183人で、前回調査の2020年末時点よりも2423人増加した。就業場所別では、診療所が最も多い13万806人、診療所以外は1万4337人。前回の調査結果と比較すると、診療所以外の就業人数が1375人増えており、その中でも歯科衛生士学校又は養成所の就業人数が顕著に増加した。

また、年齢階級別でみたところ、50〜54歳が過去最高の割合になった。2010年の結果と比べ、50〜54歳が2.3倍、55〜59歳が3.5倍、60〜64歳が4.7倍、65歳以上が7.6倍と、いずれも大幅に増加。長期に亘って働く歯科衛生士が増

■就業歯科衛生士・歯科技工士及び歯科技工所数の年次数値

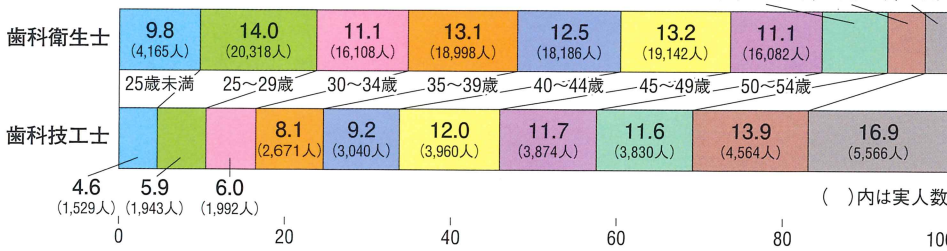
(単位:人、か所) 各年末現在

	平成24年 (2012)	平成26年 (2014)	平成28年 (2016)	平成30年 (2018)	令和2年 (2020)	令和4年 (2022)	対令和2年	
							増減数	増減率(%)
歯科衛生士	108,123	116,299	123,831	132,629	142,760	145,183	2,423	1.7
歯科技工士	34,613	34,495	34,640	34,468	34,826	32,942	△1,884	△5.4
歯科技工所	19,706	20,166	20,906	21,004	20,879	20,841	△38	△0.2

■年齢階級別にみた就業歯科衛生士・歯科技工士

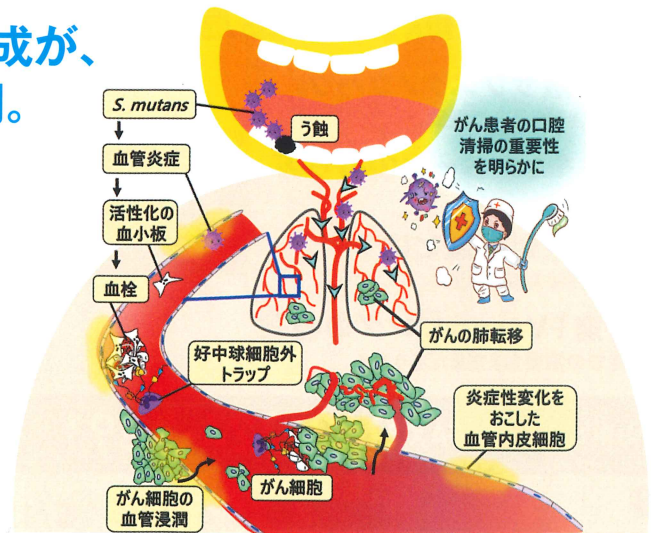
令和4(2022)年現在

55〜59歳 60〜64歳 65歳以上  
7.9 (11,523人) 4.5 (6,485人) 2.9 (4,176人)



えていることもポイントだ。一方、2022年末時点で就業歯科技工士は3万2942人となり、前回調査から1664人減少。年齢別にみても、65歳以上が16.9%を占めており、若者の歯科技工士離れを物語る結果となっている。

## ミュータンス菌による肺の血栓形成が、がんの転移を促進することを解明。



論文名: Oral bacterium *Streptococcus mutans* promotes tumor metastasis through thrombosis formation  
雑誌名: Cancer Science DOI:10.1111/cas.16010

近年、分子標的薬によりがん患者の生命予後は改善されているが、心血管系の合併症などにより治療を中断せざるを得ない状況も生じており、合併症の管理の必要性が重要視されている。中でも、がんの合併症で知られている血栓症は、死因としても2番目に多く、心血管疾患を有する患者はがんのリスクが高いとの報告もある。

そんな中、北海道大学大学院歯学研究院の樋田京子教授、ユ・リ博士研究員と藤田医科大学の研究グループは、ミュータ

ンス菌の刺激により、血管内皮細胞による血小板の活性化、好中球の遊走を促進することが示された。さらに、ミュータンス菌をマウスの毛中に循環させると、肺における血栓形成が誘発され、がん転移が増加した。

歯周炎があると口腔内細菌が血中に循環しやすくなることから、がん患者の口腔衛生管理は誤嚥性肺炎の予防のみならず、がん関連血栓症の発症や転移の抑制にも繋がる。ひいては、がん患者の生存率向上に貢献するはずだ。

の結果、ミュータンス菌により肺の血栓形成が誘導され、がん転移を促進することを発見した。研究では、ミュータンス菌の刺激による血管内皮細胞の炎症性変化と血小板活性化や凝集、好中球の遊走への影響、血栓関連遺伝子の発現レベルを解析。そ